

トビイロウンカの例年より早い初誘殺を確認！ 今年も十分注意を！

1 発生状況

昨年秋、トビイロウンカが西日本を中心に猛威をふるい、府内でも水田約4,710haの内、半数近い約2,200haに坪枯れ等の被害を発生させ、約1,400tもの減収をもたらしました。（令和2年産水稻の被害面積及び被害量：農水省統計より）

このたび、府内に設置した予察灯の調査で例年より早いトビイロウンカの本年度初誘殺を確認しました。

- (1) 令和3年5月15日夜から16日朝にかけて、岸和田市に設置した予察灯でトビイロウンカの初誘殺を確認しました。
- (2) 府内の予察灯においては例年6月中旬以降の初確認となっており、過去20年間で5月中に確認されたことは、令和元年の5月最終週に1事例しかありませんでした。
- (3) 今年は既に近隣の奈良県や徳島県でも本虫の例年より早い初誘殺が確認されています。
- (4) 近畿地方は5月16日頃、平年より3週間早く梅雨入りしており、梅雨前線に吹き込む下層ジェット気流に乗ってトビイロウンカが中国大陸から飛来する条件が早くから整ってきた可能性があります。このため、今後の飛来状況に十分に注意して、早め早めに適切な防除対策を行っておくことが重要です。



▲（参考）トビイロウンカ（長翅型・オス）



▲（参考）令和2年10月のトビイロウンカによる坪枯れ被害

2 防除対策

◆病害虫防除グループホームページにて

トビイロウンカの生態や防除を解説した**防除マニュアル「水稻 トビイロウンカの防除」**および**「令和3年版大阪府病害虫防除指針」**を公開しています。併せてご参照ください。
<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>

トビイロウンカの薬剤防除体系は移植時の箱施用と本田防除の組み合わせが基本です。

飛来数が少ない年は「箱施用剤」だけでも十分な効果が得られますが、昨年のように飛来数が多く、長期間に渡る場合は、「箱施用剤」だけでは抑えきれずに「本田施用剤」が必要になることが多くなります。

箱施用剤

(1) 移植に当たって箱施用剤(表1)を処理します。近年、トリフルメゾピリム、フルピリミン等の新規成分含有剤が上市されており、既存薬剤に薬剤抵抗性を発達させたトビイロウンカに対する効果や長期残効性が期待できます。できるだけこれらの新規成分含有剤を使用するようにしましょう。

(表1) トビイロウンカ箱施用剤(例) ※農薬名が太字の剤はウンカに対する比較的新しい有効成分を含む

種類	農薬名	成分数	トビイロウンカに対する有効成分(IRACコード)
殺虫殺菌剤	フルスロツトル箱粒剤	4	トリフルメゾピリム(4E)
	ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤	3	トリフルメゾピリム(4E)
	サンスパイク箱粒剤	3	トリフルメゾピリム(4E)
	サンフェスタ箱粒剤	3	ジノテフラン(4A)
殺虫剤	フェルテラゼクサロン箱粒剤	2	トリフルメゾピリム(4E)
	フェルテラチェス箱粒剤	2	ピメトロジン(9B)
	リディア箱粒剤	1	フルピリミン(-)
	プリンス粒剤	1	フィプロニル(2B)

注) フルピリミンのIRACコードは現在申請中で未定です。

(令和3年5月現在)

本田施用剤

(2) トビイロウンカはイネ以外の植物で生育できないため、飛来した水田がまだ田植えされていない場合は定着できませんが、今回初飛来が確認された5月中旬に既に田植えされた水田に飛来・定着した場合、本田防除適期である第1世代若齢幼虫期は6月上中旬頃、第2世代は7月上中旬頃と考えられます。

箱施用剤を適切に使用していれば1~2ヶ月程度は残効がありますので、第1世代幼虫期は抑制できると思われませんが、箱施用剤を使用していない場合は、(表2)を参考に本田施用剤を防除適期に使用してください。

今年のトビイロウンカは例年に比べ、早くから水田に飛来・定着し、防除適期も例年より早くなる等発生パターンが例年とは異なる可能性が高いため、本田をよく観察し、今後の防除情報に十分注意して臨機応変に防除対応してください。

(表2) トビイロウンカ本田施用剤 (例) ※農薬名が太字の剤はウンカに対する比較的新しい有効成分を含む

種類	農薬名	使用時期	成分数	トビイロウンカに対する有効成分 (IRAC コード)
殺虫剤	エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	1	スルホキサフロル (4C)
	エクシードフロアブル	収穫7日前まで	1	スルホキサフロル (4C)
	エミリアフロアブル	収穫7日前まで	1	フルピリミン (-)
	オーケストラ粉剤DL	収穫7日前まで	1	ベンズピリモキサ (-)
	オーケストラフロアブル	収穫7日前まで	1	ベンズピリモキサ (-)
	スタークル(アルバリン)粒剤	収穫7日前まで	1	ジノテフラン (4A)
	スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	1	ジノテフラン (4A)
	スタークル(アルバリン)粉剤DL	収穫7日前まで	1	ジノテフラン (4A)
	トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	1	エトフェンブロックス (3A)
	パダントレボン粒剤L	収穫30日前まで	2	エトフェンブロックス (3A)
パダンバッサ粒剤	収穫30日前まで	2	BPMC (1A)	

注) フルピリミン、ベンズピリモキサンのIRACコードは現在申請中で未定です。(令和3年5月現在)
 ※令和3年5月現在、ウンカに対する比較的新しい有効成分を含む粒剤はありません。

各農薬はラベルの登録内容、使用上の注意をよく読んでから用法・用量を守って使用してください。

3 その他

◆病害虫防除グループホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◆農薬の最新登録情報は、農林水産省の農薬登録情報提供システムで確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>